

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月開催	
基準日	・定時株主総会	毎年3月31日
	・期末配当金	毎年3月31日
	・中間配当金	毎年9月30日

【株主に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所
(郵便物送付先)

東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒183-8701
東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)

☎ 0120-176-417

(インターネット)
(ホームページURL)

[http://www.sumitomotrust.co.jp/
STA/retail/service/daiko/index.html](http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html)

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といします。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公 告 方 法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.nidec-servo.com/jp/>
ただし、やむを得ない事由が生じた場合には、
日本経済新聞に掲載します。

—注意事項—

本株主通信には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本株主通信に含まれる全ての将来的予測に基づく記載は、株主通信作成時点で入手可能な情報に基づいており、私達は、このような将来予測に基づく記載を更新する義務を負いません。またこの記載は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。

日本電産(Nidec)グループ
SERVO
—All for dreams

日本電産サーボ株式会社

〒376-0011 群馬県桐生市相生町三丁目93番地
TEL.0277-53-8811(代) FAX.0277-53-8810
URL : <http://www.nidec-servo.com/jp/>



このパンフレットの印刷には、環境に配慮した
植物油を使用した印刷インキを使用しています。

株主 通信

第76期 第2四半期のご報告

2010年4月1日～2010年9月30日



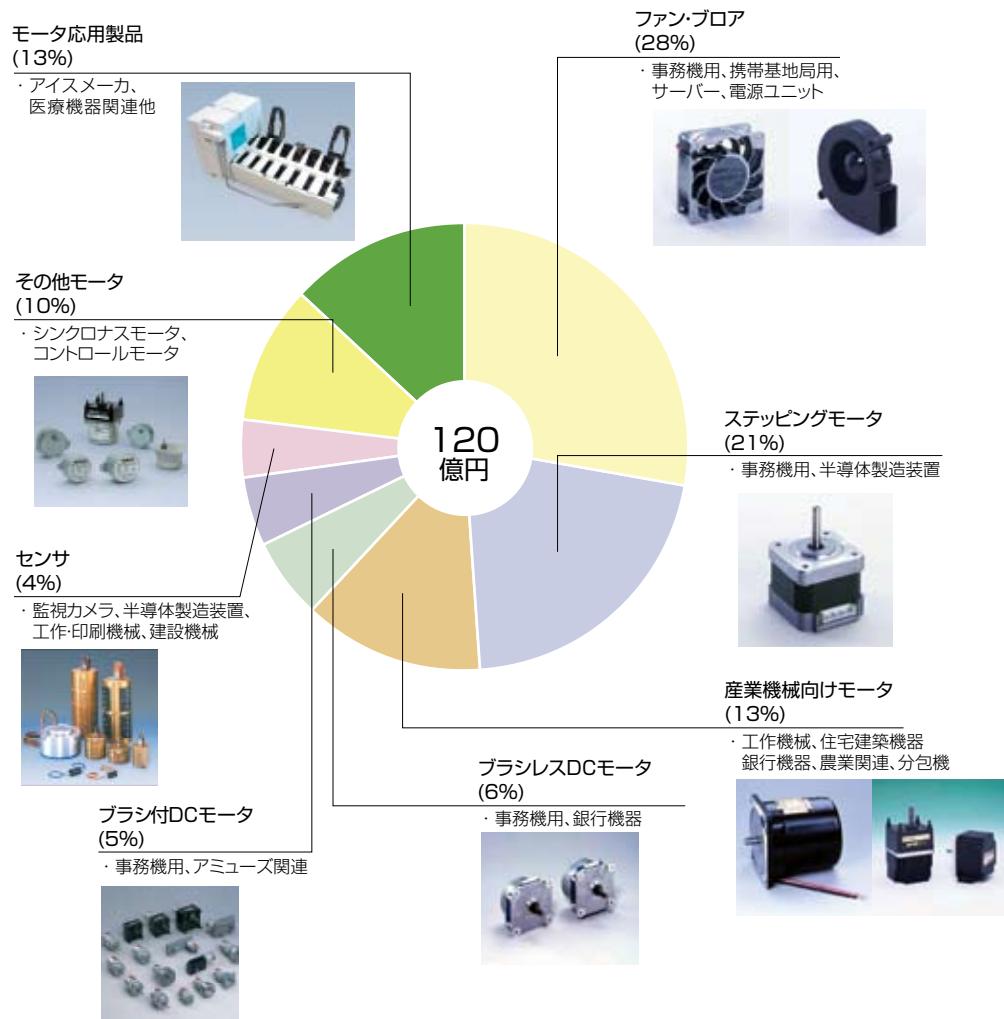
日本電産サーボ株式会社

日本電産(Nidec)グループ
SERVO
—All for dreams

CONTENTS

- 1 事業区分別売上高
- 2 株主の皆様へ
- 3 財務ハイライト
- 4 四半期連結貸借対照表
四半期連結損益計算書
- 5 業績の概要
- 6 トピックス
- 7 事業紹介
- 9 海外ネットワーク
- 10 会社概要、役員、株式情報

事業区分別売上高 (2010年4月～2010年9月)



株主の皆様へ

株主の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
第76期第2四半期(中間期)の事業をご報告するに当たり、
 皆様の平素のご支援とご協力に対し厚く御礼申し上げます。

2010年度は緩やかな回復基調の中で始まったものの、ギリシャの金融危機が欧州全体に波及して大きな混乱を生じるなど世界の経済環境は依然として不安定であり、また、わが国経済は15年ぶりの円高に見舞われ、収益悪化リスクが非常に高い状況にあります。

このような経済環境の下、当社の主たるターゲットである事務機器分野や設備投資関連分野での需要回復が依然として緩慢であったものの、当社の売上高は前年同期比で24.9%増という結果を収めることができました。また、**WPR™**推進プロジェクトの継続的な取組みによって、当社の収益力は大きく向上し、営業利益は前年同期比257.9%という大幅増を実現いたしました。営業利益率は第1四半期・第2四半期とも10%を超え、収益力はかつてないレベルを実現しております。

さて、皆様ご案内のとおり、当社は10月1日をもって日本電産株式会社の完全子会社となりました。2007年4月の日本電産グループ入りという大転換をスタートに、本社移転、社名変更、ベトナム工場新設など、事業構造の改革を積み重ねて参りました。その結果、当社はどのような環境下でも一定



代表取締役社長 田島 卓也

の利益を上げることのできる強靱な企業体質を確立しつつあります。しかし、国際的な競争がますます激しさを増す中、更に発展していく上で課題となるのは、グローバルなマーケティング展開力・製造展開力の構築です。そのためには、個々の役員・従業員が高い目線で仕事をしていかなければなりません。仕事のやり方には時流に合った様々なものがあるかも知れませんが、最後は基本が重要になります。「基本」というのは、製造現場で言うならば「整理整頓のできたきれいな現場でなければ、良い製品は生まれない」ということです。簡単なことのようにも、継続的に、徹底的に行うことは困難を伴います。完全子会社化という大きな節目で再出発をするに当たり、役員・従業員が今一度基本に立ち返り、一丸となって事業の発展に邁進して参ります。日本電産グループの総合力を最大限に活用しつつ、グループ内で、ひいては世界において確固たる地位を占めるべく、事業を展開していく所存です。

当社の株主から日本電産株式会社の株主となられた皆様方には、引き続き日本電産グループに対するご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2010年12月

財務ハイライト

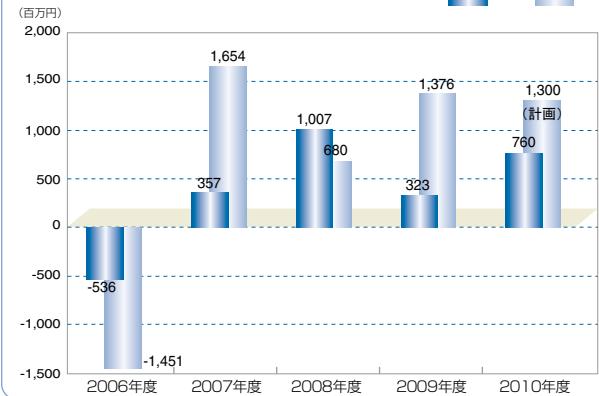
連結売上高



連結経常利益



連結当期純利益



配当金の推移・連結1株当たり当期純利益



四半期連結貸借対照表

科目	当第2四半期連結会計期間末 (2010年9月30日)	前連結会計年度末 (2010年3月31日)
■資産の部		
流動資産	13,795	12,942
固定資産	6,574	6,636
資産合計	20,369	19,578

科目	当第2四半期連結会計期間末 (2010年9月30日)	前連結会計年度末 (2010年3月31日)
■負債の部		
流動負債	8,648	8,097
固定負債	2,061	2,063
負債合計	10,709	10,160
■純資産の部		
株主資本	10,653	10,070
評価・換算差額等	△993	△652
純資産合計	9,660	9,418
負債及び純資産合計	20,369	19,578

(注)記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結損益計算書

科目	当第2四半期連結累計期間 (自:2010年4月1日 至:2010年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自:2010年7月1日 至:2010年9月30日)
売上高	12,002	5,942
売上原価	8,426	4,191
売上総利益	3,576	1,751
販売費及び一般管理費	2,291	1,115
営業利益	1,285	636
営業外損益	△34	△38
経常利益	1,251	598
特別損益	△35	0
税金等調整前四半期純利益	1,216	598
税金費用	456	194
少数株主損益調整前四半期純利益	760	404
四半期純利益	760	404

(注)記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

業績の概要

景気の回復が力強さを欠き、円高が急速に進行するなど厳しい経済環境が続く中、当社の第2四半期(中間期)業績は、右の表のとおり、売上高が24.9%増となり、営業利益では前年同期比257.9%という大きな伸びを記録いたしました。日本電産グループ全体で継続的に取り組んでいる **WPR™** 推進プロジェクトが、当社においても大きな成果を生んでいるといえます。

当社はどのような環境下でも一定の利益を上げることのできる企業体質を確立すべく努力を重ねております。今後はこの企業体質を大きな利益につなげるために、売上高を更に積み上げていくことが課題となります。次の目標は **WPR™** のガイドライン「売上高がピーク時のレベルまで回復した時点で、ピーク時の2倍の利益率を達成」するというものです。

ピーク時の2倍の利益率を達成するためには課題が山積しております。10月1日をもって当社は日本電産の完全子会社となりましたが、このことで、従来以上に機動的かつ積極的な経営資源の活用が可能になります。

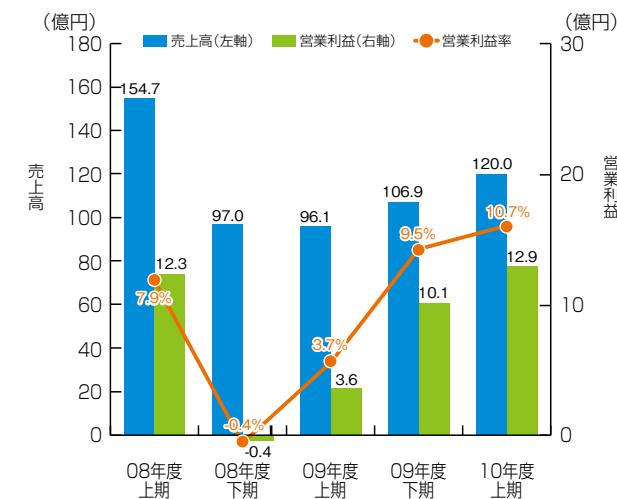
まず、開発面では、ハーフプライス対応や産機向けステッピングモータの開発促進と同時に新規設備の積極的な導入も含め、生産設計、工程設計を行い、設計と生産技術の両面から性能向上、コスト改善を図って参ります。さらに、通信設備用/厨房設備用高性能ファンや複数のファンを組み合わせたファントレイ、ハイビジョン対応監視カメラ用スリップリングなどといった当社の強みに磨きをかけるとともに、ステッピングモータ・ポンプの新シリーズを医療用途に投入いたします。そして、世界有数のモーターメーカーグループが持つ総合力を発揮するために、日本電産グループ内の技術者交流や共同開発を積極的に図って参ります。

また、販売面では、販売網の再構築や日本電産グループの販売網の更なる活用により、新規開拓、従来顧客の深耕やグループ他社との相互乗入れといった取組みを開始しており、これらは既に成果が上がりつつあります。

最後に、生産面では、匠の技を確実に伝承するとともに、海外事業所の生産力・技術力を強化し、より顧客に近いところでより迅速に顧客のニーズに応える体制の構築を目指して参ります。

	2009年度 上半期	2010年度 上半期	増減率
売上高	96.1億円	120.0億円	+24.9%
営業利益 (利益率)	3.6億円 (3.7%)	12.9億円 (10.7%)	+257.9%
経常利益	4.0億円	12.5億円	+215.9%
純利益	3.2億円	7.6億円	+135.3%
一株当り純利益	9.09円	21.49円	+136.4%

半期毎の業績推移



WPRは、2008年に日本電産(株)の永守重信が自身の独自の経営手法に付した名称です。
WPR™は、日本電産(株)の日本国における商標です。
WPR © 日本電産(株) 永守重信 2008年

トピックス ～中国における拡販活動～



代理店網(全24拠点)

- A社(10拠点)
- B社(10拠点)
- C社(4拠点)

(2010年9月30日現在)

当社は15年前から江蘇省常州市に製造事業所(日電産伺服電機(常州))を置き、香港(2002年)と深圳(2006年)には販売拠点を置いておりましたが、当社主力製品のステッピングモータ等の大口顧客が日系企業であったこともあり、販売先は日系企業が中心でした。

今日、中国は既に一大生産拠点であると同時に、世界最大の消費地となりつつあり、このような状況下では、取引先が日系企業だけでは不十分です。

当社は、成長著しい中国の現地企業に対する拡販を推進するため、上の図のとおり、中国国内に複数の拠点を持つ代理店数社と代理店契約を締結いたしました。また、常州の製造拠点の至近にある上海に新しい販社を設立いたします(2010年12月設立予定)。引き続き販売網を拡大・整備するとともに、製造事業所と緊密な連絡体制を構築し、中国の成長スピードに迅速に対応して参ります。

事業紹介

ステッピングモータ&ドライバ

当社のステッピングモータ(STM)&ドライバは、情報機器向け製品開発を原点到、OA機器・産業機器用途向けに、高精度な位置決めと低振動を追求して製品開発を進めて参りました。

- 当社の42角型ハイブリッドSTMは、従来から複写機等の事務機器に幅広く採用いただいておりますが、様々な解析手法を用いて回路構成を見直し、新たな製品を開発いたしました(KVシリーズ)。この製品は、STMで一般的に使用されている高価なネオジウム磁石を使わず、より安価で入手の容易なフェライト磁石を用いながらも同等の高性能を実現できるユニークなものです。
- 加工機械等の特定の用途向けに、STMをより高い精度で制御する「FQシリーズ」を商品化いたしました。モータの現在の状態を常時検知してフィードバックする役割を果たす光学式エンコーダ搭載モータと組み合わせることで、STMでありながら、位置ずれを起こさない高信頼度な高速動作を実現しております。当社の強みである制御技術によって、STMの特徴を最大限に活かす製品です。



ファン・ブロー

当社のファン・ブローは、OA機器向け製品開発を原点到、通信機器、サーバー及び産業機器の用途向けに徹底した静音化と高信頼化を実現する技術開発に取り組んでおります。

- 流体解析技術を活用した最適設計システムによって、徹底した静音化を実現する技術開発に取り組み、随所に業界初の試みを採用して、市場ニーズを先取りした高い市場競争力を持つ製品をお客様に提供しております。
- 高風量製品や、大型ファン・ブローでは消費電力が重要なポイントになります。特に、複数台使用するサーバーや通信機器では大量の電力を消費し、発熱量が大きくなりますので、より効率よく、安定して冷却する製品が求められます。当社では、この様な用途向けに高効率(省エネ)・高信頼のファンモータを多機種ラインナップしております。



(ブロー)



(ファン)

産業機械向けモータ

当社の産業機械向けモータは、お客様への様々なニーズに応えるソリューションを提供するため、製品開発に取り組んでおります。

- ブラシ付モータは、従来の常識を上回る長寿命化を可能にしており、その特徴を活かして、プロッター等の製品に採用いただいております。更に、省スペース化に合わせたギヤボックス、小型高分解能エンコーダ等を組み込むことで、制御機能を持たないモータでありながら、制御機能を持つモータに近い性能をより安価に提供することを可能にしております。その他、お客様の多様なニーズに合わせたユニット製品の開発にも取り組んでおります。
- ACシンクロナスモータは、一定速度で長寿命であることから搬送装置に多く使用されており、豊富な回転速度(最大30種類)のラインナップでさまざまな顧客ニーズに対応しております。



(ブラシ付モータ)



(ACシンクロナスモータ)

センサ

当社のセンサは、工業計器向け製品開発を原点点として、監視カメラその他の産業機器用途向けに、高信頼性を追求して参りました。

- ポテンシオメータは、米国航空宇宙局(NASA)の宇宙開発によって急速に発展した精密可変抵抗器で、回転角度の変化や直線的な距離の変化を高精度で正確に検出するセンサとして、コンシューマー用及び業務用の分野で幅広く利用されています。また、電気的接点を持たなくても電気信号を伝えることを可能にすることで、更に長寿命・高信頼性となる無接触センサの製品化も行いました。
- スリップリングは、固定する部分から回転する部分(又はその逆)に電力や電気信号を伝達し、連続回転を可能にする目的で使用されます。配線の複雑な引き回しや疲労による断線を防ぐことのできるユニークな製品です。近年映像の高画素化が進み、より多くの情報をより高速で伝える要請が高まっております。当社では、高速伝送に対応したスリップリングの製品化に力を入れております。



(ポテンシオメータ)



(スリップリング)

